

平成 29 年第 3 回定例会

東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーW 杯特別委員会

平成 29 年 10 月 3 日

渡辺(ひ)委員

私のほうからは大きく二つほど聞きたいと思いますが、はじめに、パラリンピックの事前キャンプの誘致について質問をさせていただきたいと思います。

今回のオリ・パラについては、藤沢は私の地元でございますが、当然セーリング競技が行われます。先ほどこの委員会などでも質問があったように、野球については横浜等でやられるそうで、そういう会場利用されるようなエリアについては、オリンピックに向けての盛り上がりということについて様々な手を打っていけばいいかと思いますが、会場がないエリアの盛り上がりというのは非常に難しい部分もあるのかなと思います。

そういう意味では、該当エリアにはない地域の盛り上げという意味で、大事な視点の一つというか、取組の一つが事前キャンプではないかなというふうに思います。過去にも事前キャンプをやって、この地域がその国とつながったり、また後々にも交流があったりということもありましたので、そういう意味では、事前キャンプというのは有用な取組だと思っておりますが、今回の委員会の資料の中でもたとえば、5ヶ国との事前キャンプに対する協定を結んだとの報告がありました。私のほうから、この協定云々というのは分かるのですが、それが実際オリンピックの事前キャンプを中心にしているのか、パラも含めて内在されているのか。

更にはパラリンピックの事前キャンプについては、また違う取組なのか、この辺も少し分からない点がありますので、それらに関連して何点か質問をさせていただきたいと思っておりますし、特にパラリンピックの事前キャンプについては、パラ自体もそうですが、神奈川県がこれだけ共生社会云々という取組をしている中で、そういう意味からすれば、他県よりももう一周真剣にというか重く受け止めて、パラの事前キャンプに取り組んでいく必要があるのかなと思いますので、そういう思いを込めて質問をさせていただきたいと思っております。

はじめに、このオリンピックを含めてどれくらい事前キャンプというものは行われているのか、ちょっと規模感も分からないので、それが分かるところがあれば少し教えていただきたいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

リオ大会の際のデータはございませんが、ロンドン大会の際には観光庁が発行している観光白書によりますと、266 件が実施されたと推計されるという記載がございます。

渡辺(ひ)委員

数的にはかなりですね。その中で、実質内容の規模まではちょっと分かりにくいと思いますが、数的にはかなりのものが得られたということだと思います。そういうことからすると、まずは本県で取り組んでいる内容、報告の数から見たときに、もっと余地があるのかなという気がしますが、そうした多くの数の事前キャンプが行われているということではありますが、その中で、今回、

私は質問の中心としているパラリンピックの事前キャンプ、これはいくつくらいあるのか教えていただきたいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

過去のパラリンピック競技大会でも事前キャンプを実施した実績がございます。ロンドン大会では16ヶ国の実施を確認しております。

渡辺(ひ)委員

16ヶ国。そうすると全体のオリンピックに比べればパラリンピックの数は少ないのかなという気はしますが、それでも我が県の取組としてはしっかりやっけていくというものだと思うのですね。その中で、事前キャンプの取組、特にパラについて、現時点では、どのような誘致状況になっているのか確認したいと思いますし、併せて全国でもどんな相談というか取組が行われているのか分ければ教えていただきたい。

オリンピック・パラリンピック課長

まず、全国の状況でございますが、今回独自に調査いたしましたところ、パラリンピック競技の事前キャンプの受け入れが決まっているのは、全国で静岡や青森、新潟、兵庫県内の自治体で5件という状況でございます。

本県でも、いくつかの国からパラリンピック競技に係る相談はございますが、具体的な話までは進んでいない状況でございます。県としても、先ほど委員がおっしゃいましたように、パラリンピックの事前キャンプを呼ぶことは大変意義があると考えており、積極的な誘致に努めてまいりたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

今、状況を聞きましたが、本県についてはまだ具体的ではないということですが、受け入れについて、要は意義があるという御答弁をいただきましたが、もう少し具体的に受け入れた時にどんなメリットがあるのか御答弁いただきたいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

オリンピックの事前キャンプと同様に、世界トップクラスのアスリートやスタッフと地元住民との交流ができるのが大きなメリットであると思っております。

また、特にパラリンピックにつきましては、先ほど委員おっしゃるように、本県が進める共生社会の考え方にも通ずるものであるというふうに考えております。

渡辺(ひ)委員

そうは言いながらも、前回のロンドン大会でも、全体で266、その中でパラの事前キャンプは16、そういうことになると受け入れるこちら側にも課題があるのだと思いますし、事前キャンプを行う向こう側にも課題があるのだと思うのですね。

たとえば、本県だけのことでいうと、パラリンピックではありませんが、障害者スポーツという視点でいうと、本会議でも質問させていただいている我が会派から、要はパラスポーツのしっかりした団体ができ上がっていない。そうなってくると当然事前キャンプの取りまとめの問題だとか、それに対する経費の問題だとか、様々な課題がほかのスポーツの団体側にもあるのだと思うのです。

が、逆にそれは細かくこちら側は当然分からないと思います。でも逆に言うと、誘致をするほうについても、やはりパラの場合は通常の競技と違う方々を受け入れるし、いろんな障害の程度の方々がおられるし、そうは言いながらも、もう少し言うと施設的な問題もかなりあると思うのですね。その課題というのは何か把握していますか。

オリンピック・パラリンピック課長

オリンピックの競技施設に比べまして、パラリンピックの競技に対応した競技施設が現状では少ないことが課題の一つだと思っております。また、バリアフリー対応の宿泊施設が少なく、まとまった数で確保することが難しい状況となっております。

相手国のキャンプに向けての要望をよく聞いて、競技施設や宿泊施設を組み合わせる必要があると考えております。

渡辺(ひ)委員

いろいろ課題があるのだと。特にその中でもバリアフリーの宿泊施設、それを組み合わせるといって話になってはいますが、組み合わせといってもなかなか難しく、要は健常の方々のオリンピックの事前キャンプだと宿泊施設はちょっと遠くなくてもいいよと、移動してちゃんと練習できる場所が確保できればいいよと、しかしながら競技によっては、また障害の程度によっては、競技の練習会場と宿泊施設が近接してはいけないとか、それでかなり条件が、更に厳しいのだと思うのですよね。そういう課題はたくさんあると思うので、しっかり取り組んでいただきたいと思いますが、今御答弁のあったバリアフリー対応の宿泊施設は現状どの程度あるというか、使えるというふうに認識していますか。

オリンピック・パラリンピック課長

県内の全てを調べているわけではございませんが、先ほどもホームページで話をしましたが、事前キャンプ誘致に当たって御協力をいただいている宿泊施設をホームページに載せています。その中で、現在把握できているのは13施設に107室バリアフリールームがございます。

渡辺(ひ)委員

13施設で107室。非常にまだ厳しいですね。これはもうちょっと言うと、パラリンピックだけではなくて、今後、神奈川県のパラスポーツだとか、ユニバーサルだとか様々考えたときに、やはりこの辺の課題をクリアしながら、近くはパラリンピックのキャンプ誘致という課題に特化しながら、先々はパラスポーツの振興、または、様々なユニバーサルにつなげていかないといけないと思うのですが、今後の取組はどのように考えていらっしゃるか、最後に聞きたいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

今後どのように取り組むかというところではございますが、県下にはパラリンピックの事前キャンプを誘致したいという自治体が複数ございます。こうした自治体としっかりと連携をとって誘致に向けて取り組んでまいります。

また、宿泊施設についての情報も市町村等と連携して把握し、情報を共有してまいりたいと思っております。また、オリンピック競技の事前キャンプが決

定している国は、パラリンピック競技についての事前キャンプを行う場合がございますので、オリンピックの事前キャンプが既に決定している国に対して、パラリンピックの事前キャンプも打診してまいりたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

是非、よろしくお願ひしたいと思うのです。市町村で複数そういうところがあると、しかしながら、そういうところにしたって、先ほど言った宿泊施設の数全然足りていない、更に今後そういうものを拡大していかないと、実際は誘致ができないという課題もあるでしょうし、更に県の場合は、県立の体育センター、ここは今改修工事をやっているということもあって、その中にはパラ競技ができるアリーナの建設だとか宿泊施設もありますので、その辺も含めて、都の事前キャンプもそうですが、どこかの市と県が一緒になって誘致を行う。様々なやり方があると思ひますので、是非その取組のお願ひをしたいと思います。

私も過日、相模原で行われたパラスポーツフェスタに行かせていただいたのです。総合体育館という相模原の場所だったので、感想から言うと、一般の健常の方々の参加の数はあまり多くなかった、これは課題だと思ひます。

しかしながら、参加してみると、それなりのアスリートが来て車椅子バスケットをやられた。それに我々も体験参加させていただくと、パラスポーツのおもしろさというの分かるし、そういう機会があるということは大事ななという気がします。事前キャンプの誘致と併せて、そういう取組も推し進めていっていただきたいと思ひますし、是非、先ほど御答弁いただいたことを積極的に対応していただきたいことを要望させていただきたいと思ひます。

次に、ラグビー、東京オリ・パラ大会に向けたおもてなしの人材の育成について何点か質問させていただきたいと思ひます。

先ほども今後の誘客だとか様々な計画の報告がありました。オリ・パラに向けて、ラグビーに向けて、様々な計画の目標値も上方修正している取組という具体的な御答弁もありましたが、誘客するのはいいが、やはりそれを継続的につなげていく、これは各審議会でも先日も発言させていただきましたが、通常のベースの観光客をどう上げていくかが大事。それに向けて、今度オリ・パラがあるので、そこに上乘せられた誘客が来る、これをしっかり受け止めることも大事。

しかしながら、オリ・パラが終わった後に、増えた誘客がもとに戻って、自然増の誘客に向けた取組だけが進んでいく、そうではなくてオリ・パラでばつと人が増えるわけだから、その方々がリピーターになって来ていただく、ベースとして右上がりにするのだが、更にそこにオリ・パラ効果で上乘せがある。こういう取組が効果的なのだと思うのですね。

その中では幾つか取組がありますが、先ほど来、この委員会に出ていたW i - F i の環境整備だとか、多言語対応だとか、そういう取組も大事だと思ひますが、あわせて、やはり日本らしい取組、日本に対する評価という面からすると、今回のオリンピックはまさにおもてなしで誘致をしたわけですから、その取組はしっかりとやっていくことが大事だと思ひます。その中で、今回の資料にもありますが、そういうことを確保するためのおもてなし力の向上、この取組について何点か質問をしたいと思います。

はじめに、ラグビー、東京オリ・パラ大会に向けてのおもてなし人材の育成、このために現在県として取り組んでいることをお伺いしたいと思います。

国際観光課長

県では、外国語によるボランティア志望者に対しまして、英語による簡単な道案内や交通機関での乗りかえ案内の伝え方を学ぶ外国人案内ボランティア講座を実施しております。また、通訳ガイドの仕事を得たいと思っている通訳案内士の方に対してまして、通訳案内士と観光関連事業者のマッチング会を開催しております。

渡辺(ひ)委員

もう少し聞かせていただきたいと思いますが、まず初めは、そのうちの外国人案内ボランティア講座、この講座について、どのような人を対象に行っているのか、また何を目的とした講座なのか詳しく御答弁願います。

国際観光課長

まず対象でございますが、15歳以上の県内に在住、また在学の方でございます。目的につきましては、ラグビー、東京オリ・パラ大会の開催期間、神奈川を訪れる多くの外国人旅行者が滞在中、快適に過ごしていただきまして、神奈川のファンになっていただけるよう、外国人を心からおもてなしできる環境を整えること、また、受講者の方がこれをきっかけといたしまして、将来的には観光ボランティアとして御活躍していただく、こういったことも目指しております。

また、具体的な講座の内容でございますが、外国人を案内するときの心構えを学ぶ基礎講座と道案内でよく使う英語のフレーズを用いたロールプレイング、こういった形の内容の二部構成で行ってまいります。本年9月の横浜と小田原市内で実施しまして、各約60名の方が参加してございます。

渡辺(ひ)委員

このボランティア講座について少し御要望したいと思います。横浜と小田原で1回目、2回目が行われたと。これはやることについては継続的にやっていくことはいいことだと思います。是非やっていただきたいのですが、各回の参加者が今御答弁の中で60名、60名という御答弁がありました。これについて、どういう数字と評価するのか、要はこれの定員が各50名、50名ということは、定員をオーバーして60名だったということからすれば盛会に開催されたということになるのですが、そもそもの定員が本当に50名くらいでいいのか。やはりもっともっとボランティアを増やしていく、また時間的な制約を考えた時には、やはりもう少し大きな会場で要は多くの方々が集まれる取組が必要なのではないかなというふうに思います。これは、外国人案内ボランティアについては、そういう要望を受け止めていただきたい。

次に、外国人観光客に対するおもてなし人材として、今御答弁もありました通訳資格を持った方々、プロの方がいらっしゃると思うのですが、現在、神奈川県にはどの程度通訳案内士の方がいらっしゃるのか。まず確認させていただきたい。

国際観光課長

平成29年9月末現在で本県に登録している通訳案内士の数は2,959名であり

ます。登録者の対象言語は10ヶ国語でございます。内容といたしましては、英語が2,262名、中国語が289名、スペイン語が145人、フランス語が128人の順となっております。

渡辺(ひ)委員

神奈川県には優位な人材がたくさんいるのだなというふうに思いました。プロといわれる方々が3,000名弱いるということでありました。是非、そういう方々が活躍できる場をつくっていただきたいと思いますが、その中で、先ほど、そういう方の人材育成のための取組としてマッチング会を行っているという御答弁があったと思うのですが、これは何のために、どのようにして実施しているのか改めてもう少し詳しく教えてもらえますか。

国際観光課長

今、通訳案内士の県内登録者の数を申し上げましたが、観光庁が実施した通訳案内士へのアンケート調査によりますと、通訳案内士の資格取得者の約4分の3がその資格を生かしきれていないという実態が一方でございます。また、県内に昨年度から開始しました希望者を対象に通訳案内士の登録情報を公開しておりますが、その公開を希望している方は平成29年8月末現在で682名おまして、通訳案内士としての活動機会を求めている方も多くいらっしゃるということがうかがえます。

そこで、県が通訳ガイドとして活動の機会を求めている通訳案内士の方とガイドの活用を考えている旅行会社等が面談をしまして、情報交換をできるマッチングでございます。こういったものを開催しているものでございます。

ガイドの志望者は自分のガイドのスキルであるとか、また空き時間、ライフスタイルに合っていると思われる会社や団体から説明を聞いた上で、双方の希望がうまく合致すれば、当該団体への参加であるとか、また具体的な業務依頼へ発展する可能性につながるという課題になっております。

このマッチング会は昨年度から実施しております、今年度は来年の1月に2回目を開催することになっています。

渡辺(ひ)委員

通訳案内士がうまくマッチングできればいい体制ができるのかなと思います。その中でちょっと確認ですが、このマッチング会は、通訳案内士と観光関連事業者ということで今御答弁いただきましたが、もう少し具体的に言うと、先々の地域の観光振興ということ考えた時に、Wi-Fiの整備だとか、多言語対応だとかいうことになった時に、地域の観光協会の方々のマッチングは、このマッチングの中には入っているのですか。観光協会、要は永続的に、オリンピック・パラリンピックが終わった後でも、その地域でこういう通訳の方々、またガイドの方々が活躍できる環境に転換すると。要は旅行会社の方々とマッチングするだけではなくて、地域の観光協会がその方々をマッチングして、その後も継続的にできるということが、やはりどっちかというレガシーになるのだと思うのだがその辺はどうなのか。

国際観光課長

今、観光協会とのマッチングというお話がございましたが、通訳案内士のマッチングイベント、昨年実施した状況でございますが、案内士100名募集した

ところに参加者が132名とかなり人気がございました。それと出店事業者として15社の方が参加いただいてマッチングしたところでございます。この出店の事業者の方については、たとえば、通訳業を生業としているところもございませし、また旅行代理店、また地元のボランティア団体といったところもございませす。その通訳案内士の方が、本人の希望によると思っておりますが、たとえば、それを生業として自分がビジネスとしてやっていきたいという方はそちらを選んでいただければというふうに思いますし、また、そういう地元のボランティア団体に入っただいて、それで神奈川県を訪れる観光客を案内していただく、そのところは通訳案内士の方の選択に任せるとは思いますが、基本的には、県内でスペシャリストになって案内していただくことになりませすで、それはもう県内の新しい人材の確保、活性化にはつながるのではないかなというふうに思っております。

渡辺(ひ)委員

今回の質問としてはオリ・パラ準備を中心に聞いているので、それに向けての今言った人材の活用でいいのだと思います。しかしながら、先々の観光振興を考えた時には、やはり地域の観光協会の方々がそういう方々をその後もうまく使えるような仕組みも必要だと思っておりますので、是非それは御検討願いたいというふうに思いました。

もう一点、最後になりますが、両大会に多くの方々がガイドとして参加してもらうことは大事だと思いますが、そのためには県としては今後どんな取組をしていくのか質問したいと思います。

国際観光課長

まず、外国語でのボランティア活動を希望している人に、実際におもてなしの場で活躍していただくために、たとえば、ラグビー、東京オリ・パラ大会で募集は予定をされている外国語を話せるボランティアについては、県がその募集情報を提供するなどして、積極的に参加を呼び掛けてまいります。

また、通訳ガイドとしての活動を希望される通訳案内士の方や、資格は持っていないのですが、語学力があつて、また観光に関する専門的な知識をお持ちの方々には、大会の期間中、県内の観光地で観光ボランティアとしての活躍が期待されているところでございませす。

そこで、こうした方々には、県内で活動しているボランティアガイド団体や市町村、または観光協会などと連携いたしまして、おもてなし人材として活躍できる取組を検討していきたいというふうに考えております。

渡辺(ひ)委員

最後に要望として、今検討中だと思いますので、たとえば、ガイドの方が要は民間会社とつながっている方々はいいいのだが、ボランティアの方々に対して、たとえば、そういう方々がちゃんといれる場所、拠点、こういうものをどうやってつくっていくのか。そうしなければ、どこにガイドさんがいるか分からないという状況が当然出てくるので、それを解決する意味でも、若しくはガイドさんの負担を軽減する意味でも拠点の仕組みをどうやってつくっていくのか。

更には、東京なんかは既に発表していますが、そういう方々にインセンティブも含めて、また目立つということも含めて、東京ではユニフォームをしっか

り協議をして対応していくということになっています。

この辺については、神奈川はどうしていくのか。要はオリ・パラだけではなく。その後のことも含めても構わないのだが、そういうこともしっかりやっていって、そういうことでいうとモチベーションになって多くのガイドさんがやっっていこうということになるかもしれませんので、あわせてその辺も協議、検討をしていただきたいことを要望させていただいて私の質問を終わります。